

輝 ねむろ

We Love Nemuro!

「フルネームに、日本人の祖父が好きだった勝海舟の「カイシュウ」とロシア名の「アリオージャ」が入っている。これがなかったら日ロ研究をしていなかったかも知れません。」と流ちょうな日本語を使い笑って話してくれたのは、7月から3カ月間、市の北方領土対策課にて就業体験を行っている北海道大学博士院生（フランス人留学生）のファベネック・ヤン・カイシュウ・アリオージャ・アントワーヌさんです。

ヤンさんは、「日ロ間に平和条約が締結されていないのは異例だ」と、ロシアで企業経営の経験がある父の言葉と、フランスに日ロ研究の専門家がいないことが相まって、その道の専門家になろうと決意したそうです。

現在、北大スラブ研究センターにて、日ロ関係を背景にした地域研究を行っています。「根室は日ロ関係を語る上で重要な拠点であり、この地で領土問題や環境問題など、さまざまな視点で研究に取り組みたい。」と意気込みを見せます。

ヤンさんには、今後、四島の架け橋ならぬ世界への架け橋となってくれることを期待します。

最前線で世界へ発信



初めて踊る根室名物千人踊り

profile ファベネック・ヤン・カイシュウ・アリオージャ・アントワーヌ さん 北海道大学・大学院 研究科

1985年生まれ。2007年エックス・アン・プロヴァンス法学部卒業。2010年パリ東洋語学言語文化学院修士課程卒業。2011年パリ7大学入学。2012年北海道大学大学院入学。2013年7月から北大スラブ研究センターのグローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」の一環として根室市役所で就業体験を行う。

千島桜を望む窓

市長室のカレンダー

6月25日、本土最東端に位置する重要港湾・根室港（花咲港区）への貿易船の入港数が2万隻に達したことを受けて、「貿易船入港2万隻達成記念セレモニー」が花咲港中央埠頭で行われました。

これまで2万隻を達成した道内7港の中では、最短の26年3カ月と、約8年も短縮した記録。2万隻目となったロシア船籍の「スピリッツア号」のセルゲイ・バクノフ船長や乗組員20人に対し、長谷川市長は「本日、記念すべき2万隻の節目に入港された船員の皆さまに感謝申し上げますとともに、達成を心から祝うものです。重要港湾・根室港は、北方海域における貿易港として重要な役割を担ってきたところであり、今後とも関係者の皆さまには、根室港の貿易振興に対し、お力添えいただきたい。」と、あいさつをした後、花束贈呈や、齋藤幸雄日本関税協会函館支部根室地区協議会長と大坂鉄夫根室港貿易振興会長から記念品が贈られました。

セルゲイ船長からは、「このような場を設けていただき感謝します。今後、両国の友好的な協力関係が広がり、根室市が更に発展することを期待しています。」と、お礼の挨拶がありました。

開港当初は年間10隻程度だった外国船入港数も、現在は、年間数千隻以上入港しており、今後、地域経済の活性化が期待されます。

